

# 津波など死者3111人

「岡山には地震がない」。そう思っている人は多い。事実、体に感じる地震の少なさは全国でもトップ級だ。

## 防災まめ知識 ①

だが近い将来、必ず大地震がくる。南海トラフ地震だ。30年以内に起きる確率は7割とされている。最大規模の「巨大」地震となった場合、どうなるか。県の報告書が2013年に公表された。最悪想定を見ると、身の毛がよだつ。

ただし、これは住民の防災意識が低い場合の数字だ。意識が高い想定では、死者は半減する。

県南部を中心に震度6弱の揺れが襲う。岡山市南区では、面積の2割近くが6

明治中期から昭和初期に活躍した随筆家で物理学者の寺田寅彦はこう書いた。「ものをこわがらな過ぎたり、こわがり過ぎたりする



南海トラフ巨大地震の被害想定

- けが人1000人以上
- 100～999人
- 100人未満

新庄村、新見市、真庭市、鏡野町、津山市、美作市、美咲町、久米南町、赤磐市、和気町、岡山市、備前市、瀬戸内市、玉野市、早島町、浅口市、倉敷市、中央町、吉備中央町、高梁市、総社市、矢掛町、井原市、里庄町、笠岡市

のはやさしいが、正当にこわがることはなかなかむづかしい」

「正当にこわがる」ためには、データを冷静に見据え、自分にできることは何か考え、備えるしかない。

### 備前焼作家有志ら

### 支援チャリティー

### あす、岡山一番街の広場

東日本大震災の起こった年から備前焼作家の有志で始めた「東日本復興支援チャリティー from bize」の準備が進んでいる。今年11日午前10時～午後



チャリティーに出す作品を準備する原田良二さん(右)と作家仲間の水上岳正さん。備前市伊部

突然襲う災害に、どう備えるか。6年目を迎える「3・11」を機に、自分でできる防災の基本を数回に分けて振り返ってみる。(中村通子)

5時、岡山市北区のJR岡山駅地下改札口前の岡山一番街コンコース広場で開かれる。

約50人の作家による約500点が販売され、経費を除いた売上金全額が医療救援活動団体「AMDA」と子どもの自立支援組織「子どもシェルターモモ」に寄付される。

作品は500～3万円の価格帯に分けられ、代金は募金箱に入れてもらう形だ。作家有志の原田良二代表は「続けていくことが大切と思っている。7度目の今回も多く仲間が応じてくれた。通常より2、3割安いので多くの人に買ってもらえたらうれしい」と話す。問い合わせは副代表の森敏彰さん(0869・642497)。(阿部治樹)